



発行所
岡崎市立葵中学校
(電話 21-0171)
(FAX 21-0172)

6月号



葵中学校の よびこびり

校長 柴田 昌一

葵中学校は、岡崎市で最も歴史のある中学校のひとつとして、その伝統と自由な校風で知られています。

葵中学校では、生徒たちが主体となって学校生活のあり方を作り上げてきました。在校生はもちろんのこと、卒業生の合言葉にもなっている生活信条「あ言葉にも「思いやり」「今が大切」は、昭和四十八年に当時の生徒たちによって生み出されました。五十年も前のことですが、葵中の名称の頭文字からできているこの言葉は、生活様式や習慣が大きく変わった今でも変わらず大事だと思います。

また、今も行事等に登場し、葵中生から愛されているゆるキャラ「あおいぬ」は、十年前の平成二十六年にすべての生徒が一人一枚キャラの絵を作り、学級ごとに絞り込み、生徒の総選挙で決定したものです。生徒たちがキャラクターデザイン、選定、資金集めなど、自分たちの力で生み出し、

当時に行われた「ゆるキャラグランプリ」にも出場しました。

さらに、髪型や服装についても生徒の意見を取り入れており、現在の形に至っています。先日の全校生徒集会で話し合われたのは、今年の春に卒業した生徒が提起した「靴の色は白色のみでなくともよいのではないか」という議題です。これは、在校生が思いを引き継ぎ、学校全体での議論を促しました。全校での話し合いの結果、試行期間を設け、その上で最終的な決定をすることになりました。

このように、生徒たちが主体的に議論し、意見を交換する場が設けられているのも葵中学校の大きな特徴です。

葵中学校は生徒と教師の距離が近く、生徒が自分たちで考え、解決しようとする特徴があります。例えば、生徒の遊びの輪に教師が加わり、楽しそうにおしゃべりをしている場面が見られます。部活の大会でミスをしたとき、生徒がベンチにはいる顧問の表情を気にするなどはほとんどありません。そのようなときは、生徒同士が励まし合い、次のプレーをどのようにするか言葉を交わして乗り切ります。また、修学旅行では見学生にいる観光客に「おたくの中学生は先生と仲良く気軽に話をするのですね」と声をかけられることがあります。

私たちは、生徒に悩みがあるときには、相談しやすい教師でありたいと考えています。生徒が安心して学校生活を送るために、友達

や保護者に加えて教師の存在も感じてほしいのです。少しでも生徒の心の支えになりたいのです。このように書くこと、教師と生徒の間に必要な距離感を欠き、なれ合いになるのではと心配されるかもしれませんが、そのことを頭頭に置きつつ、生徒と関わるように努めます。

葵中学校のよさは、皆でつくりあげていくことにあります。生徒たちが自らの意見を述べ、それを元にして学校生活をより良くしていく姿勢は、生徒の自立心や協調性を養います。ぜひ、社会に出て活躍できる力を中学校で身につけてほしいです。

これからも葵中学校は、生徒一人ひとりの意見を尊重し、共に歩む姿勢を大切にしていきます。自由な校風と歴史ある伝統を融合させながら、歴史たちが主体的に成長できる場を提供していくことを目指します。葵中学校の未来は、生徒たちの手によって形作られていくのです。葵中学校はこれからも「皆でつくりあげる学校」として、生徒にとっての理想の学び舎であり続けたいと思います。





思いを胸にバトンを繋げ！

陸上部男子

僕たちは団体で入賞することを目標に日々の練習に取り組んできました。総合体育大会では、リレーで以前のタイムよりも一秒縮めることができました。しかし、団体では入賞することができず、悔しい結果となりました。

市長杯でも団体で入賞することが目標です。最初の種目の選手から最後の種目の選手までバトンを繋げるように全員で、一秒でも速く悔いが残らないよう全力で大会に挑みます。

真剣に楽しむ

陸上部女子

私たちは、この二年間自己ベスト更新を常に目指してがんばってきました。そのなかで、悔しかったり、つらかったり、仲間とうまくいかないこともありました。それを乗り越え、三年生全員で出られる最後の大会は、みんなが今までの努力の成果を出し切り、先生や仲間への感謝の気持ちをもって、入賞目指して全力を尽くします。また、仲間が競技をして

いるときには、チームみんなで応援し、お互い支え合い、真剣に楽しみ、最後の大会にします。

最高のプレーを

男子ソフトテニス部

私たちの学年は去年の先輩たちと比べ、団結がありませんでした。しかし、そんな私たちにも共通するものがあります。それは勝ちたいという強い思いです。この思いを力に変えて、一勝でも多くとれるように頑張ります。泣いても笑って

も最後の試合です。全力で挑みます。そして、今まで私たちを支えてくれた先生や親、すべての人に感謝の気持ちを込めて最高のプレーをお見せします。

最後の大会

女子ソフトテニス部

私たちは総合体育大会で、三位に入賞することができました。しかし、準決勝では全敗し、三位になったことを素直に喜ぶことができませんでした。

まもなく、最後の大会です。練習の成果をすべて発揮し、悔いの残らない大会にしていきたいと思います。最後まで仲間と応援しあい、勝負が決まるその瞬間まで、全力でプレイします。勝ち残りてみせるので、応援よろしくお願

いします。

全員で最後まで

バレーボール部

私たち三年生にとって中学校最後の夏。新人戦や総体など、これまで何度も嬉しい思いをしてきました。しかし、上

目標達成に向けて

男子水泳部

手くいかない時、辛い時には、いつも仲間と支え合ってプレーをしてきました。夏の大会でも必ず苦しい場面があると思います。そんな時は、仲間と声を掛け合い、全力で楽しみながら、全員で最後までボールを繋ぎます。

中学校生活最後の大会に向けて部員全員で個々のスキルを上げるために日々の練習を全力で取り組んできました。僕は県大会の決勝に残り上大会に進むことを目標としています。より多くの部員が自分の目標を達成できるように、仲間と助け合い全力で頑張ります。そして今まで支えてくれた人

たちへの感謝の気持ちを忘れずに、一秒でも早く泳ぎます。

やり切る

女子水泳部

私たちは一瞬一瞬を大切にし、自己ベスト更新に向けてひたむきに練習に励んできました。自分に勝つために自分の弱さ

と向きあつてどこを改善すれば良いかをよく考えながら泳いでいます。ついに最後の大会です。絶対勝つという強い思いと、これま

で支えてくださった方々への感謝の気持ちを胸に全てを出しきれよう、仲間と共に全力で挑みます。

後悔のないように

男子卓球部

僕たちは、今まで何度も悔しい思いをしてきました。新人戦や総体など、あと一歩のところで負けてしまい、とても悔しかったです。

市長杯が僕たち三年生にとって最後の大舞台、それまでの残り少ない練習をむだにはせず、より真剣に取り組みしていきます。本番でも、今までの悔しさをばねにして、後悔のないように仲間と共に全力で頑張ります。

悔しい思いを生かして

女子卓球部

私たち女子卓球部は、総合体育大会では、悔しい結果になってしまいました。市長杯は、三年生にとって最後の団体戦です。今まで部活を頑張ってきた仲間と、これまでの悔しい思いを市長杯で生かし、先生やチームメイト

に良い結果を見せられるように、残り少ない日々の練習を頑張っていきます。そして、最後に仲間と良い思い出が作れるよう、チーム一丸となって協力し、励ましあい、笑顔で終われるよう全力で戦ってきます。

勝ちにこだわる

野球部

僕たちはこれまで限られた時間の中で、時間を大切に着実に力をつけてきました。大会でも勝ち取る

ことができるようになってきました。勝ちたいという気持ちも強くなりました。

勝ち負けにこだわらずに、勝ちたいという気持ちも強くなりました。市長杯では、勝利に貪欲になり、最後まで諦めず、今まで負けていた相手にも勝利できるように全力のプレーで頑張りたいと思います。

後悔のないように

ソフトボール部

市長杯で後悔しないように練習を重ねてきました。

普段の練習では、基礎を固め、チームで話し合いながら、練習方法を工夫しています。このようにして、チームワークを深め、小さなミス

をしないことを心がけてきました。数少ない北中学校との合同練習でも、さらに強くなれるように、お互いに刺激し合い、全力で練習しています。つらいときも、嬉しいときも一緒に過ごしてきた仲間と、最後まで笑顔を決らず頑張り

僕らの集大成

サッカー部

三年間、苦業を共にしてきた最高の仲間と練習できるのもあと少し。

今までの大会に向けてたくさん汗を流し、厳しい練習も乗り越えてきました。最初は見目がまともならず、

ニヶーションをとりながら練習することで、今では最高のチームになったと思います。そんな最高の仲間と共に、最後の大会に全力で挑みます。

目標に向かって

バスケットボール部男子

僕たちは、四月に行われた総合体育大会を終えました。市長杯に繋がる結果ではあったものの、準決勝で新人戦と同じ相手に負け、自分たちの課題がより明確になった大会でした。

市長杯では、これまでの集大成として成長した姿を見せるだけでなく、今まで支えてくださった方への感謝の気持ちを胸に、最後まで諦めることなく走り続け、自分たちの目標へと突き進みます。

最高の試合を届けたい

バスケットボール部女子

部活動の集大成となる市長杯で、最高の結果を残すことを目標にこれまで練習

に励んできました。

チームスローガン「Be Tough!!(強くあれ)」を胸に刻み、気持ちを強くもち、簡単なプレーほど大切に、仲間を思い、仲間を信じて戦ってきます。そして、応援してくれている全ての方々を魅了する、感動の試合をします。最後はみんなで、笑顔でハイタッチをして終わりたいです。

自分の剣道ができるように

男子剣道部

僕たちはこれまでの大会で何度も悔しい思いを経験してきました。「こ一本取れたら勝てたのに。」や「もったいない」と

取られ方をしながら、「またた。」などと、部員同士振り返り課題を見つかることで、それを補う稽古をしています。この稽古が無駄にならないようにチーム全体で互いに高め合い、部活動に取り組むことで、最後の夏の大会

で悔いの残らない結果が得られるようにしたいです。そのためにも、これからの練習に対して精進していきたいと思

心を一つに

剣道部女子

私たちは総体のために日々練習を頑張り、張ってきましたが、当日チーム一丸とな

って自分たちが満ち足りる試合を行うことができませんでしたが、目標であったベスト四に入ることができず、とても悔しい思いをしました。

この悔しさをばねに市長杯では、みんなの気持ちを一つにし、お互いを励まし合って試合に臨みたい。そして悔いの残らない試合にするために全力で頑張ります。

下剋上

ハンドボール部

僕たちは、総体準優勝という結果で優勝に一步届かぬ結果でした。この結果を通して、一つ一つの

パスやシュートにこだわっていかねばならないと思わされました。

市長杯では、たくさんの人に感謝の気持ちを持ち、僕たちらしいハンドボールをし、最後の一秒まで諦めずに絶対に優勝していきます。

夏のコンクールに向けて

響け！葵中サウンド

吹奏楽部

私たちは今、夏のコンクールに向けて一人一人が練習に励んでいます。自由曲は「はたるのひかり」を演奏します。この曲は、笛の優しい光や美しさを表現した作品です。冒頭は、みんなで気持ちを合わせ、低音から次第に音が広がる部分と合わせて、低音から次第に音が広がる部分、打楽器の躍動感のあるリズムで、小さくも生命力溢れる笛を表現します。葵中サウンドを会場に響かせられるよう、精一杯挑みます。

伊賀川プロジェクトに参加して 歴史ある地域貢献活動

七十六年も前から行われている伊賀川プロジェクトの活動。今年第一回目は二三年生合わせて二百人以上の方が参加してくれました。伊賀川プロジェクトでは土手の清掃や球根植えを積極的に笑顔で行う姿を見て、地域に貢献したいという思いが伝わり、とてもうれしく思いました。みんなのそんな姿を見ていても私も積極的に参加することができました。学校の先生や地域の人々、たくさんの方のおかげで今年最初の伊賀川プロジェクトは大成功だと思えました。これからもこの活動の歴史がつなげていくことを願っています。

海の学習を終えて

彩幸の絆

一年五組

海の学習では、仲間と協力することや、互いを認め合うことの大切さを学びました。当日はあいにくの天気ですが、引網の代わりにジェスチャー伝言ゲームを行いました。一回戦ではうまく伝言することができませんでしたが、二回戦では互いに協力し合い成功することができました。また、モザイクア

職場体験を終えて

仕事をすることの難しさ

二年二組

今回の職場体験では、学年テーマ「S TAGE」の完成を目指し、頑張ってきました。体験では、仕事をやり遂げる難しさを実感しました。僕は、アトラクションでのお客さんの対応をしました。立ちっぱなしの仕事だったので、足が痛くなりました。しかし、ラグナシアのスタッフさんは、一日中この状態にも関わらず、全員に

対して笑顔で、丁寧に対応しており、感銘を受けました。今回の職場体験での学びと経験を今後の生活に活かしていきたいです。

表彰の記録

第八十八回岡崎市総合体育大会の記録

- 【団体の部】
- 準優勝 三 位 ハンドボール部
- 男子バスケットボール部
- 女子バスケットボール部
- 女子ソフトテニス部

【個人の部】

- 女子陸上 二 位
- 走高跳 二 位
- 男子水泳 二 位
- 〇〇m平泳ぎ 二 位
- 〇〇m自由形 二 位
- 女子水泳 二 位
- 〇〇mバタフライ 一位
- 西三河中学校春季陸上競技大会
- 走幅跳 一位
- 〇〇mH 一位
- 全日本中学校陸上競技選手権大会
- 混成競技西三河予選会
- 中学生女子四種競技 一位
- 岡崎市民新人卓球大会 一位
- 一・二年男子の部 三位

今後の予定



- 六月 二九日(土)〜七月一四(日) 市長杯
- 七月 一〇日(水)〜一二日(金) 保護者会
- 一八日(木) ひまわりプロジェクト
- 一八日(木) 給食終了、大掃除
- 一九日(金) 終業式
- 八月 二九日(水) 二学期始業式
- 二八日(水) 四時間授業給食なし
- 三〇日(金) 二年生第一回岡崎学力検査
- 給食開始

葵が丘



みんなががつてみんないい

進路指導主事

「みんなががつてみんないい」一度は耳にしたことのある言葉ではないでしょうか。金子みすゞさんの「私と小鳥と鈴と」の中に用いられている言葉です。みんなががつてみんないい」という言葉は、私が仕事をする上で、大切にしている言葉です。私が出会った子供たちは、数多くいて、価値観も考え方も表情も、それぞれ違っていました。以前は、違っていることを正すことが教育であると思っていました。しかし、それは私の考え方を子供たちに押し付けていると気づきました。それよりも、違うことが子供たちのよさであり、個々にあった伝え方・話し方を考えることが大事だと思えるようになりました。「今、どんなことを考えているのか」と立ち止まって考えるだけで、様々な伝え方・話し方を探すことができました。進路選択こそ、みんなががつてみんないいと感じています。目標に進むだけがゴールではなく、進んだ先で、今よりも成長でき、この選択でよかったと思えることが大切だと思います。一人一人が違っているからこそ、何通りもの選択があります。よりよい選択ができるように、これからも生徒たちに寄り添える大人でありたいです。